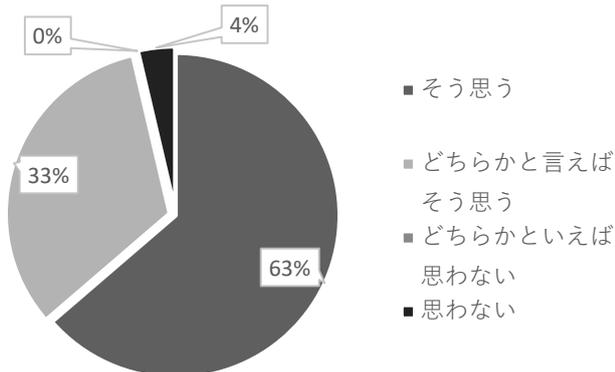


令和5年度 学校評価アンケート結果報告～課題と考察～

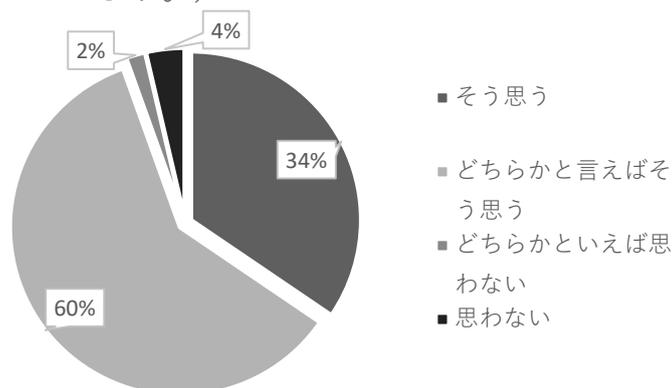
【児童アンケート】

○よかった点

[質問 15] まちにある公園や図書館などを約束を守ってきれいに使うことができます。

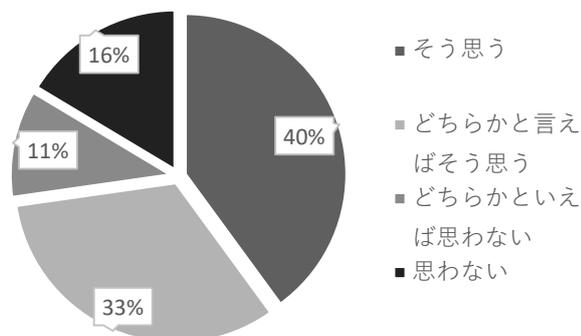


[質問 9] 学習のめあてをつかんで、自分の考えをもち、友達の意見もよく聞いて勉強しています。（話をよく聞いて考えています。）

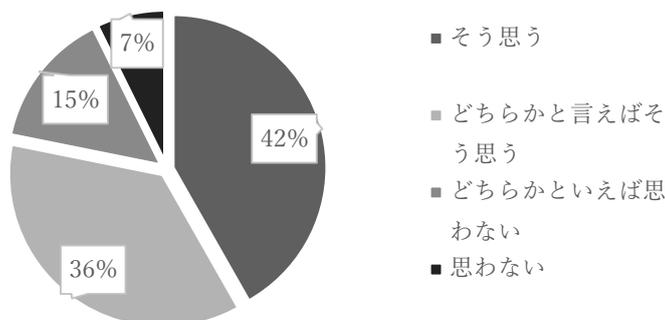


課題としては●改善すべき点

[質問 20] 積極的に本を読むことができます。



[質問 14] 外国の友達とも進んでかかわりを持つことができます。



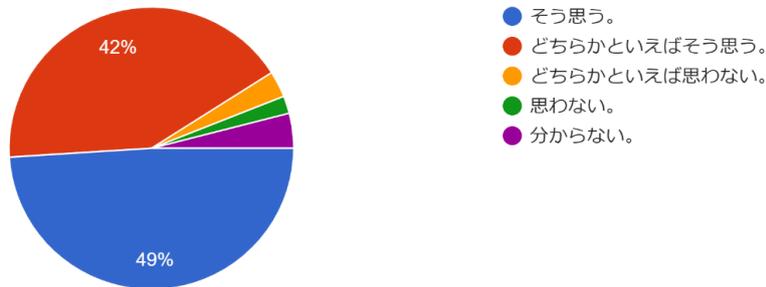
～考察～

- ・[質問 15]から、公園の使い方について学校全体で指導を重ねてきた成果がアンケートから分かりました。
- ・[質問 9]については、普段の学習指導に加えて重点研などで考えを伝えあう活動を重視してきた成果が見られました。こちらは教職員のよい点重点研究テーマ②にもつながっていますが、研究授業に限らず、授業を大切にする姿勢は続けていきます。
- ・[質問 20]各クラスで読書の時間を設けてはいるが、自発的、日常的に読書をしている児童を育てるには至っていないことが考えられる。様々な読書活動を通して、読書の楽しさを知る機会を引き続き作っていく。
- ・[質問 14]外国籍の児童が多数在籍する中で、それぞれの担任が実態に合わせた指導や学級経営を行ってきた。また国際教室での手厚い指導も継続している。今後は言葉や文化の違いを超えて児童同士が関われる環境づくりを学校全体として行っていく。

【保護者・地域の方からのアンケート】

○よかった点

- ① 子どもたちは、学校生活を楽しんでいる。(1問目/全18問中)



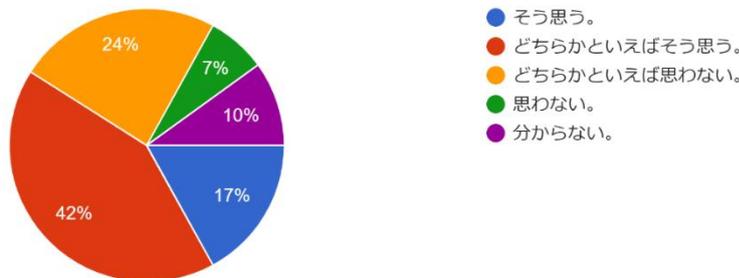
- ② ⑫児童や保護者が困ったときに、校内の職員や教育相談・スクールカウンセラー等、個別に相談できる体制がとられている。

個に寄り添う支援や教育を進めるには、一人一人に適した指導や相談体制を整え、職員間で共有を図りながらよりよい支援について工夫していく必要があると感じています。

- ⑭保護者は、授業参観や運動会などの行事に積極的に参加している。

課題としては ●改善すべき点

- ② 子どもたちは、元気にだれにでも気持ちのよいあいさつができています。(2/18)



- ⑪組織的にいじめのない学校づくりに取り組んでいる。

- ⑬子どもたちは進んで本を読んでいる。

～考察～

- ・①は、保護者・児童の意見が一致しており、また昨年度から引き続いての結果だった。児童が楽しいと感じられる学校づくりをより一層進めていく。
- ・⑫個に寄り添う支援や教育を進めるには、一人一人に適した指導や相談体制を整え、職員間で共有を図りながらよりよい支援について工夫していく必要がある。
- ・⑭行事に限らず、「森っ子見守り隊」のように保護者に来校していただく機会を増やしていく。
- ・②あいさつについては、教職員・保護者・地域の方が伸ばしていきたい子どもの姿としてご意見をいただきました。校内での取り組みを通して、少しずつ自分からあいさつできるようになっている子もいますが、来年度以降もあいさつ当番のような活動を続け、自ら進んであいさつできる子を育てていきます。

- ・⑪授業や普段からの生活指導を通して、いじめの未然防止と早期発見に努め、児童が安心できる環境づくりを引き続き進めていく。
- ・⑬保護者に加えて、児童自身が共に感じている内容である。学校での読書環境づくりとともに、家庭での読書習慣の定着など、学校に加えて家庭での協力も得て、進んで本に親しめる機会を増やしていく。

【教職員のアンケート】

○よかった点

- ・②重点研究テーマ「すすんで表現し、お互いの考えを伝えあう楽しさを実感し、よりよい生き方を求める子」に沿って、国語科学習および生活全般で、「見せたい、伝え合いたい」という環境設定に取り組んだ。
- ・③毎時間学習計画を意識し、一人一人の基礎・基本の定着に向けて、発問・板書に着目しながら、指導の工夫・改善を目指した。

●改善すべき点

- ・⑧各種感染症対策を十分配慮しながら、体を動かす活動に取り組んだ。
- ・⑰校務のICT化、文書のスリム化、会議の精選等をいっそう推進し、ゆとりある学校運営をめざすことができた。

～考察～

- ・②③研究授業に限らず、授業を大切にする姿勢は続けていく。
- ・⑧感染症対策が緩和されつつある現状を踏まえ、休み時間の外遊びや体育の学習をより充実させてく。
- ・⑰働き方改革が重視される中で、本校も放課後の会議の見直しや校務分掌のあり方を引き続き模索していく。
- ・(その他) いじめについて課題と感じている保護者が多かった一方、教職員の意識には温度差が感じられた(⑬⑭⑮)。子どもや保護者に安心してもらえる学校づくりが求められている。

【来年度に向けて】

全体のアンケートを通して、学校生活を通して「楽しい」と感じている子どもが多いことがわかった。学校全体で子どもたちを見守っていくことについては、今後も一人一人に寄り添えるよう継続していきたい。

いじめに対する保護者の意識と、教職員の意識との間に乖離が見られた。児童が安心できる学校を目指して環境づくりを引き続き進めていく。

読書の習慣と、あいさつについてはまだ定着していない様子が伺えた。これらは前年度から引き続きの課題でもある。子どもを取り巻く環境が大きく変わり、ネット上の動画を鑑賞することが主要な娯楽になりつつあるが、読書の大切さや楽しさにも気づけるようにしていきたい。さらに読み聞かせや、図書委員会の活動などを通して本に触れる機会を積極的につくっていく。

本年度行ったあいさつ当番のように、児童から進んであいさつをし、あいさつをすることの良さを感じられるようにしていく。

教職員同士の振り返りにおいては、授業への前向きな姿勢が見られたりしたこと、学び合いの姿が見られたことが成果として挙げられました。さらに教職員同士の学び合いを密にし、児童のスムーズな学習活動を目指して、的確な指示や安全を考えた場の設定、学びのルールの徹底を図ること、また、児童の心に寄り添い、心身の健やかな成長につながるよう努力していくことを目指していきます。